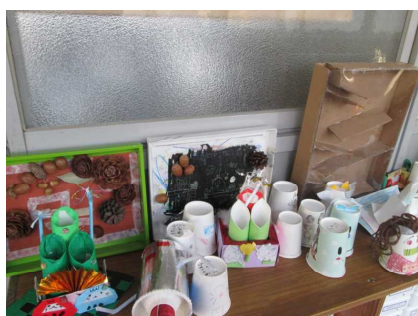


校長室の窓から

【NO.16】

いま、ここに、共にいること…



【1年生】



【2年生】



【3年生】



【4年生】



【5年生】



【6年生】

【廊下は冬休みの力作でいっぱい】

「おはようございま～す!!」

毎朝、全クラスをまわって、朝のあいさつをしています。

どのクラスも元気よくあいさつを返してくれるのが、私の何よりの元気の素です。

クラスによっては私の足音が聞こえると、「来た、来た」と、教室でつぶやいている声が聞こえます。

ますますうれしくなって大きな声であいさつすると、その何百倍もの校舎が壊れんばかりの大きなあいさつが返ってきます。

「よし、今日も、頑張るか!!」

子どもたちのあいさつで、一日のエネルギーをもらっている私は、“いま、ここで、この子どもたちと共にいる自分” “子どもたちに生かされている自分”を感じ、子どもたちとの出会いに感謝しています。

おうちの皆様、本年も、どうぞよろしく願いいたします。

「すてきな埴生っ子」とは 自分の心をはたらかせ

まわりの人たちに心やさしくしてあげられる子…

【三学期始業式での校長の話の前半の要旨】



新しい年になったので、だれもが「今年はこれがんばろう」と目標をたてたと思います。

目標をもつことは大切なことなので、ぜひはっきりした自分なりの目標をもって、それに向かって頑張れる自分をつくっていきましょう。

さて、その目標ですが、勉強や運動の目標も大切ですが、校長先生がいつもみなさんにお願

【寒さに負けず無言清掃】 いしているのは、今年はどんな自分になりたいのか、「なりたい自分」を、いつも心にとめておいてほしいということです。

校長先生は、毎朝、道ばたに立って、登校してくるみなさんと会っていますが、先頭の班長さんが1年生の人と手をつないで来るときがありました。「どうしたの？」と聞くと、1年生の人が転んじゃったというのでした。

心優しい高学年の人の姿に、朝からうれしくなったのを覚えています。

また、2学期の終業式の後、生徒指導係の先生からお話があったように、帰り道でも、道で転んでしまった1年生に、高学年の人たちがティッシュをあげたり助けてあげたりしたという話を聞いてうれしかったです。

困っている人や悲しんでいる人の心を感じて、声をかけたり手を貸してあげたりする埴生小のみなさんの姿を今までもたくさん見てきて、心が温まったことが何度もありました。

「ステキな埴生っ子」というのは、自分の心をはたらかせて、まわりの人たちに心やさしくしてあげられる子なのかなあと思い、自分もそんな自分になれたらいいなあと思いました。

みなさんは、今年、どんな自分になりたいですか？

短い3学期ですが、自分の「なりたい自分」を心にしっかりもって、みんなで明るく楽しく元気よく1年間のまとめとなる3学期にしましょう。



始業式の話後半では、新型コロナウイルス感染についての話をさせていただきました。

もう、いつ誰が感染してもおかしくない中で、その場に出会った自分はどのような自分であればいいのか、前半の話と絡めながら、子どもたちに想いを訴えました。

おうちでもお話してください。

【全校でシトラスリボンづくり】

【文責：田中寿一】